令和４年度　学校だより　千葉市立生浜小学校

おいはま

No. 4　（家庭数配付）　発行：令和４年９月１日

子どもらしさ

校長　佐藤 隆弘

皆さんは、サン=テグジュペリ『星の王子さま』内藤濯（あろう）訳を読まれたことはありますか。私は中学生の時に初めてこの本に出会いました。高校生、大学生、社会人になって何度か読み返していますが、やはり次の部分が好きです。

～王子さまは、キツネのところにもどってきました。

「じゃ、さよなら」と、王子さまはいいました。

「さよなら」と、キツネがいいました。「さっきの秘密をいおうかね。なに、なんでもないことだよ。心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、よく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ。」

「かんじんなことは、目には見えない」と、王子さまは、忘れないようにくりかえしました。

「あんたが、あんたのバラの花をとてもたいせつに思っているのはね、そのバラの花のために、ひまつぶししたからだよ。」

「ぼくが、ぼくのバラの花をとてもたいせつに思っているのは……」と、王子さまは、忘れないようにいいました。

「人間っていうものは、このたいせつなことを忘れてるんだよ。だけど、あんたは、このことを忘れちゃいけない。めんどうみたあいてには、いつまでも責任があるんだ。まもらなけりゃならないんだよ。バラの花との約束をね……」と、キツネはいいました。

「ぼくは、あのバラの花との約束をまもらなけりゃいけない……」と、王子さまは、忘れないようにくりかえしました。～

岩波書店「星の王子さま」より

「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、よく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ。」という王子さまの言葉は、今でも私の中に生きています。

また、サン=テグジュペリは、この本のはじめに「おとなは、だれも、はじめは子どもだった。（しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらもいない。）」と言っています。全くそのとおりだと思います。私たち大人は、少し前までは子どもだったのです。夏休みには、カブトムシやクワガタやセミを捕っていたのです。子どもたちには、もっともっと子どもの時代を思いっきり過ごしてほしいと思います。今の子どもたちは、はやく大人になりすぎている気がするのは私だけでしょうか…。夏休みだけでなく、普段から子どもらしく一日一日を過ごさせ、「あどけなさ」を十分にじっくりと味わわせたいものです。

これを書いていたら、久しぶりに「星の王子さま」を読み返して「星の王子さまミュージアム」に出掛けたくなってきました……